

平成28年度 公益財団法人日立地区産業支援センター

# 事業報告書

公益財団法人日立地区産業支援センター

## 平成 28 年度 事業報告書及び附属明細書

日本銀行の地域経済報告（平成29年4月）によると、「関東甲信越地域の景気は、緩やかな回復基調を続けている。公共投資は、横ばい圏内の動きとなっている。一方、輸出は、持ち直しているほか、設備投資も、増加している。個人消費は、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、底堅く推移している。また、住宅投資も、持ち直している。こうした中で、生産は、緩やかに持ち直している。この間、企業の業況感は、改善している」としています。

また、商工組合中央金庫の中小企業月次景況観測（平成29年3月）では、「中小製造業の3月の景況判断指数（※）は、50.0（前月46.9）と3.1ポイント上昇。3カ月ぶりに上昇した。4月は48.9と低下を見込む。また、2月の売上高（前年同月比）は+0.3%（前月同+1.6%）と3カ月連続して増加した。3月は同▲1.1%、4月は同▲0.5%を見込む」としており、中小企業の景況は持ち直しの動きを示しています。

しかし、本地域では、地域の産業を牽引してきた大手企業の事業再編やグローバル化が加速するなど、地域中小企業を取り巻く環境は、依然厳しい状況が続いています。

こうした状況の中にあって、平成28年度は、平成27年12月に日立市が策定した「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、日立市の交付金事業を実施したほか、ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業（中小企業団体中央会）、創業支援事業者補助事業（中小企業基盤整備機構）、三市連携デジタルものづくり拠点化事業（ひたちなかテクノセンター）など、国・県等の補助事業や委託事業を活用し、人材育成を始め、競争力の強化、受注開拓、新製品新技術の開発、創業支援など幅広く支援事業に取り組み、多くの中小企業に参加いただくことができました。

地域の振興には、産業の活性化が不可欠であり、引き続き、企業の競争力や収益力の強化を目指し、経済環境の変化や、地域の特性、企業のニーズなどを踏まえた様々な産業支援策を効果的かつ効率的に展開するとともに、事業の実効性を高めてまいります。

※景況判断指数：指数が50を上回っていれば調査企業群（製造業450社）の景況判断が前月より好転したことを表し、50を下回っていれば景況判断が前月より悪化したことを表す。

【新規】…平成 28 年度に新たに取り組んだ事業

【総合戦略】…日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略  
に示された事業

## I. 財団企画事業の計画、実施

### 1 人材育成に関する事業

#### (1) ものづくり基礎技術研修

##### ア 図面の見方研修

図面の役割、幾何公差、溶接記号等図面を見る上で必要な知識を習得する研修を実施し、新入社員や初任者の基礎知識の習得及びレベルアップを図った。

##### (ア) 研修内容

研修名	回数	受講者数	講師	内容
機械 図面の見方	4回	53名 (26社)	財団シニアコーディネーター 原 孝介 氏	図面の種類、表示方法、記号の意味、読み方、注意点などの解説
製缶・溶接 図面の見方	2回	18名 (13社)	中小企業実務アドバイザー 綿引 邦彦 氏	実際の図面を使用して見方、読み方を指導

※いずれの研修も1日4時間で3日間の研修

##### (イ) 事業の成果及び効果

アンケート結果では大半の方から「理解できた」との回答があった。講師はいずれも実務経験が豊富であり、経験談なども好評であった。



研修風景①



研修風景②



研修風景③

#### イ 測定器取扱基礎研修

品質の維持及び向上のためには、正しい「評価」が不可欠であり、また、正しい「評価」を行うために、正しい「測定技術」が必要である。本研修は正しい測定技術を身に付けてもらうためのもので、実際にノギス、マイクロメーター、ダイヤルゲージ、ハイトゲージなどの測定工具を使って品物を測定し、技術の習得を図った。

##### (ア) 開催期間 8月31日～9月1日

##### (イ) 対象者

測定工具を扱う実務担当者

##### (ウ) 研修内容

- 測定器の種類、用途、注意点等についてテキストを使用し解説
- ノギス、マイクロメーターを1人1台使用し教材の測定物を実測
- ダイヤルゲージの使い方を学び、シリンダーゲージに取り付け実測
- ハイトゲージにて実測(各測定実測時は講師が巡回して指導)
- 質疑応答(疑問点等全般に関する事項)

- (エ) 受講者数、修了者数
  - a 受講者数 36名(20社)
  - b 修了者数 36名(修了基準：全時間出席、かつ講師が修了と認めた者)
- (オ) 講師
  - a 財団登録実務アドバイザー 宮田 清美 氏、守田 博敏 氏
  - b 財団シニアコーディネーター 原 孝介 氏
- (カ) 事業の成果及び効果
  - a 36名の受講者に対し、講師3名で各受講者の席を回りながら測定方法を指導したことで理解度を高めることができた。
  - b アンケート結果では、「大変良く理解できた」と「良く理解できた」を合わせると92%、「ある程度理解できた」が8%であった。



研修風景①



研修風景②



研修風景③

## ウ 導入機器操作技術個別指導

センターに導入されている各種機器の適正な利用を促すため、利用者に操作方法の個別指導などを実施した。

- (ア) 事業内容
 

試験評価機器等の操作方法の指導・サポートを必要とする者を対象に、操作技術の個別指導を行った。
- (イ) 実施内容

試験評価機器の種類	回数
三次元測定機システム	16回
振動試験装置	17回
非接触表面粗さ測定機システム(輪郭形状測定含む。)	17回
万能試験機	11回
恒温恒湿器	4回
冷熱試験機	2回
CNC 画像測定機	1回
微小硬さ試験機	4回
合計	72回

- (ウ) 事業の成果及び効果
  - a 利用者が評価及び測定する前に操作技術の個別指導を行ったことで、理解度を高めることができた。
  - b 個人のレベルに合わせた指導を受けることができるため、利用者からは非常に好評であった。

## (2) 機械加工基礎研修

品質の維持及び向上には、正しい機械操作を行い、良い品質のものを加工する必要がある。そのため、マシニングセンタを使用して間もない者、これから使用する事を検討している者等初心者を対象に、安全教育から基本操作、プログラミングの基礎といった基本的な内容を習得するための研修を実施した。

### ア 研修内容

#### (ア) マシニングセンタの概要

特徴、加工の種類、用途、切削工具とツーリングシステム

#### (イ) プログラミングの基礎

加工手順、切削条件、切削工具の決定、各種機能、指令方法、基本応用動作、固定サイクル、サブプログラム

#### (ウ) 加工実習を通じた機械操作の安全に関する注意点

加工工程、使用工具の選定、プログラムの作成・登録・編集、工具取付・芯出し・座標系設定、切削工具取付(交換) オフセット入力、プログラムチェック、不良(誤作)事例とその対策、自作品加工、プログラミング・加工・トラブルシューティング

### イ 受講者数及び修了者数

#### (ア) 受講者数 12名(10社)

#### (イ) 修了者数 12名(修了基準：出席率80%、かつ、講師が修了と認めた者)

### ウ 講師 財団登録実務アドバイザー 宮田 清美 氏

### エ 事業の成果及び効果

- (ア) 講師の指導方法、テキスト等をわかりやすく工夫したことで、受講者からは非常に好評であった。
- (イ) 実技主体の講座とし、受講者全員が機械操作を実習したことで、受講者の理解度を高めることができた。



研修風景①



研修風景②



研修風景③

### (3) IT人材育成

社内管理体制の強化及び作業効率向上に必要なIT人材を育成するため、地域中小企業のIT専任者同士の情報共有ができる場を設け、各企業が抱えている課題を解決することを目的としたIT勉強会を実施した。

#### ア 事業内容

##### (ア) 「課題解決型」勉強会

勉強会では各社が抱える課題を解決するため、グループディスカッションとコーディネーターによる助言やノウハウを提供した。

また、各企業が専門家派遣制度を活用し、課題解決に向けて訪問アドバイスを実施した。

##### (イ) 展示会見学会

- a 日時 平成28年10月19日
- b 催事名 IoT Japan 2016(東京ビッグサイト)
- c 参加者数 6名(5社)
- d 内容

IoTの最新技術を紹介する専門展示会を見学し、今後のIoTの方向性や、中小製造業の生産性向上のための情報を収集した。

##### (ウ) 優良企業見学会

- a 日時 平成29年2月10日
- b 視察先 (株)今野製作所(東京都足立区)
- c 参加者数 10名(8社)
- d 内容

中小製造業における開発情報の連携を実現するため、IT活用についての意見交換を行い、ITカイゼンの必要性を認識するとともに、生産性を向上するための情報収集を行った。

#### イ 参加者数 7名(5社)

#### ウ 事業の成果及び効果

参加企業からは、「自社の課題について相談でき、アドバイザーと解決までの取組を考え進めていく課題解決型の勉強会に満足している」、「他企業の課題と取組についても知ることができ参考になった」等の意見があり、IT勉強会に対する満足度は高かった。



研修風景①



研修風景②



研修風景③

#### (4) 3D-CAD 操作技術研修

##### ア 部品・アッセンブリ

汎用性の高い3次元CADシステムであるSolidworksの作画の基本操作方法を実践的に身に付けるための研修を実施した。

##### (ア) 受講者数及び実施内容

実施期間	受講者数	内容
	修了者数	
平成 28 年 7 月 11 日～15 日	3 名 (2 社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Solidworks の概要と特徴</li> <li>• Solidworks 基本操作習得</li> <li>画面構成とメニューバー、ツールバー等の用語解説と操作、モデル課題(すべり軸受けの作成)</li> <li>[実習 1]</li> <li>• 上カバーの基本形状、輪郭形状の作成</li> <li>• 上カバーの外装面、内装部の作成</li> <li>• モデル課題(携帯電話)</li> <li>[実習 2]</li> <li>• 下カバー、バッテリー、アンテナの基本形状、輪郭形状の作成、アセンブリの作成</li> <li>• モデル課題(ユニバーサルジョイント)</li> <li>[実習 3]</li> <li>• アセンブリ分解図の作成と操作</li> <li>• 2次元図面の作成(断面図、詳細図、図面記号、表題欄等の入力操作)</li> <li>• Solidworks の基本操作まとめ</li> <li>[実習 4]</li> <li>• 部品の作成(コイルバネ、ドライバー等)</li> <li>• 参考実習 (3D プリンターを使った名札板作成)</li> </ul>
	3 名 (2 社)	
平成 29 年 1 月 23 日～27 日	4 名 (4 社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Solidworks の基本操作まとめ</li> <li>[実習 4]</li> <li>• 部品の作成(コイルバネ、ドライバー等)</li> <li>• 参考実習 (3D プリンターを使った名札板作成)</li> </ul>
	4 名 (4 社)	

##### (イ) 事業の成果及び効果

- a 修了者7名中5名から「大変良く理解できた」、残り2名も「ある程度理解できた」との感想があった。また、全員から「会社業務に適用できる」との意見があり、生産性や品質の向上に役立つことができた。
- b 3Dプリンターによる造形を取り入れたことによって、具体的な応用例を提示することができ、理解が深まった。



研修風景



3D プリンター



造形物

##### イ 板金・溶接

(株)ひたちなかテクノセンターにおいて、同じ内容の3D-CAD研修が開催されたことで、応募者がなく、研修を取りやめとした。

## (5) 技能検定受検講座

技能検定の合格率を向上させるため、学科受検対策講座を実施した。

### ア 研修内容

区分	内容
一般共通問題	択一問題の出題及び解説
過去問解説	平成 21 年度から 27 年度過去問の実践及び解説
関連規格等解説	労働安全、衛生規則など
質疑応答	疑問点や全般的な事項

※3 時間×5 日間/教科、平成 28 年 7 月 15 日～8 月 28 日延べ 18 日間実施

### イ 講師

(ア) 財団登録実務アドバイザー 会田 則男 氏

(イ) 財団シニアコーディネーター 原 孝介 氏

### ウ 事業の成果及び効果

受講者 9 名 (7 社) 中 9 名が受検し、9 名全員が合格した。

科目	級	受講者数	受検者数	合格者数	合格率
普通旋盤	1 級	1 名	1 名	1 名	100%
普通旋盤	2 級	3 名	3 名	3 名	100%
一般熱処理	2 級	4 名	4 名	4 名	100%
一般熱処理 高周波・炎熱処理	2 級	1 名	1 名	1 名	100%
合計		9 名	9 名	9 名	100%

## (6) 日立製作所日立総合技術研修所公開講座共催事業

日立製作所の社内研修所である「日立総合技術研修所」が地域中小企業に対して公開開催しているカリキュラムの中から、中小企業が単独では習得する機会の少ない高度な技術研修や豊富な経験を有する講師陣による初心者にもわかりやすい基礎講座について、活用促進を図った。

### ア 研修内容

講座名	研修期間	受講者数
実践的問題解決技法	3 日間	2 名
作業改善のための治工具・雇の作り方研修	5 日間	2 名
初心者のための電気・電子入門研修	5 日間	1 名
合計	—	5 名

### イ 事業の成果及び効果

(ア) 上期 22 講座、下期 19 講座が公開され、5 名 (8 社) が 10 講座を受講した。

(イ) 受講者からは、多くの技術を習得することができ、仕事に役立つと好評だった。



## (7) 若手経営者等人材育成事業

地域中小企業の若手経営者及び後継者が中心となり、社会、経済及び産業構造の変化に対応できる実践力を醸成するため、自主運営及び課題研究解決型の人材育成事業である「ひたち立志塾」を実施した。

ア 実施期間 平成 28 年 5 月～平成 29 年 3 月

イ 参加者 57 名 (卒塾生：54 名、新規塾生：3 名)

ウ 塾頭 明星大学 経済学部 教授 関 満博 氏

エ 実施内容

(ア) 総会 1 回

(イ) 全体会 6 回

開催日	会場	内容
平成 28 年 5 月 26 日	ひたちなか商工会議所	平成 28 年度開塾式 (関塾頭講演会、パネルディスカッション)
7 月 23 日	日立地区産業支援センター	塾生同士によるブレインストーミング及びディスカッション
10 月 1 日	ひたちなか商工会議所	新規事業取組企業の事例紹介 (株)ユニキャスト 代表取締役 三ツ堀 裕太 氏 新規事業立ち上げのシミュレーション
12 月 3 日	日立地区産業支援センター	最新試作技術応用による短納期 DDM 活用と企業連携 (株)タカラトミー 技術開発部 専門課長 松岡 洋和 氏 グループディスカッション
平成 29 年 2 月 4 日	ひたちなか商工会議所	立志塾に入塾してよかったこと等についてのグループディスカッション
3 月 25 日	日立シビックセンター	平成 28 年度成果発表会 (関塾頭講話、第 10 期生成果発表、パネルディスカッション)

(ウ) 運営委員会 12 回

(エ) 交流会 5 回

開催日	場所	内容
平成 28 年 9 月 4 日	ひたちなか市	ひたち立志塾 10 周年記念式典
11 月 11 日～12 日	岡山県津山市	全国若手ものづくりシンポジウム in 津山
平成 29 年 1 月 29 日	東京都墨田区	明日のすみだを拓く大交流会
3 月 11 日	東京都墨田区	フロンティアすみだ塾(第 13 期)閉講式
3 月 18 日	東京都八王子市	はちおうじ未来塾 第 10 期生修了式

(オ) 新規塾生による活動

新規塾生自らがテーマを決め、活動を行った。

- a テーマ 「自社を知る」
- b 内容

後継者となった自社の歴史を学ぶことで、創業者及び経営者の思い及び企業理念等の理解を深め、動画による「デジタル社史」を作成した。

オ 事業の成果及び効果

- (ア) 新規塾生 3名のうち 1名は仕事の都合で途中から休塾となったが、2名は1年間の活動を終了し、修了証書が授与された。「デジタル社史」は好評であった。
- (イ) 塾全体活動において、10年間の活動を取りまとめるとともに、立志塾のパンフレット案を作成した。

### (8) 3日間社長のカバン持ち体験事業

地域の学生を対象に地元企業の経営者と行動をともにし、考え方や仕事を学ぶ社長のカバン持ち体験研修及び事前マナー研修を実施した。

ア 事前マナー研修

- (ア) 開催日 平成 28 年 8 月 9 日
- (イ) 参加者 学生 12 名
- (ウ) 会場 茨城大学 工学部
- (エ) 講師 (有)マネジメント・サポート 代表取締役 皆川 雅彦 氏(社会保険労務士)

イ 社長のカバン持ち体験研修

開催日	研修先	参加学生数
平成 28 年 8 月 22 日～23 日、25 日	吉野電業(株)	1 名
8 月 31 日～9 月 2 日	(株)小峰製作所	1 名
9 月 5 日～7 日	(株)ユニキャスト	1 名

ウ 研修報告会

- (ア) 開催日 平成 28 年 10 月 28 日
- (イ) 参加者 学生約 100 名
- (ウ) 会場 茨城大学 工学部
- (エ) 内容

社長のカバン持ち体験研修に参加した 3名の学生による報告会を行った。

エ 事業の成果及び効果

参加学生からは「社長から感銘を受けた。研修に参加できて良かった。」との感想があり、働くことの意義を理解するとともに、地域中小企業への関心度を高めることができた。

## (9) 三市連携デジタルものづくり拠点化事業【新規・総合戦略】

(株)ひたちなかテクノセンターから委託を受け、大手企業と中核企業間において 3D-CAD 等のデジタルデータをネットワークでやり取りすることで、リアルタイムの情報連携を可能とし、大幅なリードタイムの短縮と中小企業の仕事量の増加を図った。

ア 実施期間 平成 28 年 6 月～平成 29 年 3 月

イ 実施内容

(ア) 3D-CAD 導入課題の調査、分析

医療系中核企業 4 社に対し、3D-CAD 導入における課題調査を行い、課題抽出・分析作業を実施した。

a 作業実施期間

	平成 28 年 6 月～8 月	9 月～10 月	11 月～12 月
作業内容	課題抽出	課題分析	対策立案

b 実施内容

(a) 課題を抽出・分析した結果、特に、情報連携、情報共有、情報範囲について、(株)日立ハイテクノロジーズと協議を行い、早く、かつ、安く改善できるクラウド型情報共有サービス OnSchedule on TWX-21 を活用して情報が連携できることとなった。

(b) 11 月に試行、12 月に運用ルールの明確化、ルールの簡素化を行い、実運用に移行した。

項目		課題件数
3D-CAD 利用環境	情報連携	24 件
	情報共有	6 件
	情報範囲	2 件
	互換性	5 件
設計外注		2 件
配線 CAD		7 件
CAM 関連		7 件
セキュリティ		2 件
生産管理		3 件
その他		8 件
合計		66 件

(イ) CAM 研究会の設置

CAM 研究会を設置し、3D-CAD データを工作機械で扱えるデータに変換、加工時における課題及び解決策について、検討を行った。

a 研究会構成

企業	中核企業 5 名 (4 社)
アドバイザー	茨城大学工学部 教授 乾 正知 氏 (株) TEK 東京営業所 課長 長谷川 良典 氏
オブザーバー	(株) ひたちなかテクノセンターなど 4 名

b 開催概要

開催日	内容
平成 28 年 8 月 30 日	CAM 課題の各社共有 (フリーディスカッション)

10月5日	SolidCAM 製品及び SolidWorks 新機能紹介、OnSchedule on TWX-21 の活用
12月6日	エンタープライズハーネス(配線 CAD)製品紹介、企業内で抱える CAM 課題と改善策(フリーディスカッション)

c 実施内容

- (a) CAM の課題は CAD/CAM ソフト、ポストプロセッサの進化により解決できることが判明したため、切削時間を 70%低減する CAM ソフトや、Solidworks2017 の新機能、低価格で操作効率が良い配線 CAD 等の最新技術ソフトの活用を提案した。
- (b) 先進企業の調査を参考に、設計効率向上、試作回数低減に効果が期待できる配線 CAD を提案した。



CAM 研究会風景 (8/30)



CAM 研究会風景 (10/5)



CAM 研究会風景 (12/6)

ウ 事業の成果及び効果

参加企業が課題の抽出と解決策に取り組み、以下のような成果を得た。

項目	目標	成果			
		A 社	B 社	C 社	D 社
製品開発製造日数短縮	10%	70%~95%	33%	20~30%	37%~60%
売上アップ	15%	60%	5%	8.9%	5%
新規雇用者数	20 名	56 名(4 社合計)			

(10) 魅せる「ひたちらしさ」体感事業 【新規・総合戦略】

東京圏から日立市への流れを創出し、中小企業の人材や受注の確保、更には地域活性化を図るため、地域特性を活かしたプロモーションを行い、集積するものづくりを中心にした中小企業の技術力やサービスを体感する機会を提供した。

ア ひたちらしさの見える化とプロモーション

(ア) 動画及び冊子の作成

a 動画「ものづくりのまち・日立市～暮らしと仕事がちょうどイイ！」の作成

- (a) 300 秒動画  
(b) 30 秒動画

期間	内容
2月22日	ものづくり技術フォーラム 2017 での上映
3月25日~29日	映画館(渋谷、つくば、水戸)での CM(30 秒) 放映
3月30日	YouTube での配信開始

- b 冊子「ものづくりのまち・日立市～暮らしと仕事がちょうどイイ！」の作成
- (a) 仕様 A4版8ページ カラー刷り
  - (b) 部数 30,000部
  - (c) 配布先 東京圏の大学等
- c 冊子「ものづくり企業ガイドブック」の作成
- (a) 仕様 A4版66ページ カラー刷り
  - (b) 部数 1,000部
  - (c) 掲載企業数 64社
- (イ) 受発注コーディネーターによる発注案件開拓  
受発注コーディネーターが東京圏企業を訪問し、ものづくり企業ガイドブックを活用した受注企業のPRを行い、発注案件を開拓した。  
訪問企業数 49社(平成28年11月～平成29年3月)
- (ウ) 東京圏等でのプロモーションの実施

期日等	内容
平成28年 11月25日	日本工業大学に対するプロモーション
平成29年 2月12日	茨城マルシェでの企業見学ツアーチラシ配布
2月16日	東京圏に立地する大学のキャリアセンターへの企業見学ツアーチラシ送付(171キャンパス)
2月22日	めぶきFG ものづくり企業フォーラム2017に出展 いばらき移住・就職相談センター及びいばらき暮らしサポートセンターに対するプロモーション
3月25日 ～28日	映画館(渋谷、つくば、水戸)でのプロモーション動画のCM(30秒)放映
3月30日	YouTubeでのプロモーション動画(300秒及び30秒)配信開始

イ 体験事業の企画・提供

- (ア) ものづくり企業見学会

実施日	対象者	見学先	参加者数
平成29年 1月13日	常磐大学3年生 (常陽銀行及び常磐大学との連携により実施)	(株)三友製作所 (株)今橋製作所	13名
2月16日 ～17日	日本工業大学2年生 水戸経理専門学校1年生 (2/17のみ)	小平記念館 (株)ユニキャスト 日立アプライアンス(株) (株)今橋製作所 (株)日昌製作所	23名
合計			36名

(イ) 東京圏在住者向け日立市体感企業見学ツアー

a 日帰りツアー

コース	見学先	参加者数
Aコース 3月13日	(株)ティー・エム・ピー、(株)ユニキャスト	0名
Bコース 3月14日	(株)ショウエイ、(株)今橋製作所	0名
Cコース 3月16日	(株)三友製作所、(株)日昌製作所	1名

b 1泊2日ツアー

実施日	見学先	参加者数
3月21日～ 22日	小平記念館、日立アプライアンス(株)、(株)ユニキャスト、(株)今橋製作所、(株)日昌製作所	0名

ウ 事業の成果及び効果

- (ア) 動画や冊子を活用したプロモーションによって、ものづくりのまち日立市を広くPRすることができた。
- (イ) 学生を中心にもものづくり企業の見学会を実施し、見学先企業には自社の魅力をアピールする機会を提供することができた。また、参加者には製造現場を体感することで、ものづくりに対する興味や関心を醸成することができた。

## 2 競争力強化に関する事業

### (1) 工場力革新チーム(FaIT)塾

現場改善等の実践を通して地域中小企業(工場)の競争力強化及び人材育成を図るため、改善の座学研修のほか、先進的な取組を進める優良企業の見学、専門家等の講演会、各社現場での改善を行った。

また、活動期間をこれまでの6か月としたコースのほか、改善エリア限定で取り組める「3か月コース」を設けた。

ア 研修期間 平成28年6月～12月

イ 入塾者数 11名(4社)

ウ 改善テーマ

改善テーマ	企業数
生産性の向上	1社
5S改善及び生産性向上	1社
不良低減及びムダ排除	2社

エ 実施内容

(ア) 専門家による講演会等の開催

実施日	講演会等の内容	講師
平成28年 6月10日	講演会「中小企業が生き残るために、今何をなすべきか」	いばらき生産性向上人材育成スクール 校長 本堂 一郎 氏

6月中旬・下旬	座学研修「5Sと改善の進め方」	HITS 上級アドバイザー 館岡 英夫 氏、中澤 博之 氏、赤上 順啓 氏、高橋 好 氏
12月2日	講演会「良い生産の流れを作る現場改善」	(公財)茨城県中小企業振興公社 テクノインストラクター 国谷 晃雄 氏

(イ) 優良企業見学・企業相互訪問

実施日	内容	企業数
10月27日～28日	燕三条ものづくりメッセ視察及び新潟県燕三条優良企業見学	3社
11月11日	塾生企業相互訪問	4社

(ウ) 個別指導

財団登録実務アドバイザーによる改善テーマ別の個別実践指導を延べ36日実施した。

オ 事業の成果及び効果

受講者が現場改善等のテーマに取り組み、以下のような成果を得た。

A社 6か月 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>レイアウト改善による多工程持ちを可能とし、1名削減することができた。</li> <li>作業員全員の作業中移動歩数が約7万歩削減することができた。</li> <li>1月当たり634千円低減することができた。</li> </ul>
B社 6か月 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器製造ラインの作業漏れ低減活動を展開した結果、作業漏れ率を24%低減することができた。</li> <li>改善成果を維持するための作業手順書を4件作成するとともに、検査基準見直しを3件行い、現場の5Sを実現することができた。</li> </ul>
C社 6か月 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>納期遅延防止を目標に掲げ、受注台帳の見える化、見積方法の見直し、発送の増便及び在庫の見える化などを進め、受注から製作開始まで3日間短縮することができた。</li> </ul>
D社 3か月 コース	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場5S改善に取り組んだ結果、溶接ワイヤー、グラインダー砥石の見える化を実現することができた。</li> <li>管理責任者を決め、速やかに発注できるよう工夫した。</li> </ul>



優良企業見学会



集合写真(閉講式)

## (2) 実務アドバイザー派遣・出前研修事業

地域中小企業のものづくりから販売までの様々な課題解決をサポートするため、財団登録実務アドバイザー(専門家)を派遣し指導した。

### ア 実務アドバイザー派遣事業

(ア) 派遣企業数 27 社

(イ) 派遣日数 延べ 256 日

(ウ) 実施内容

ISO 2015 年版への移行対応、生産改善、販路開拓、資格取得教育等のニーズに沿った指導を実施した。

(エ) 事業の成果及び効果

次の実施内容においてレベルアップが図られた。

実施内容	企業数
ISO 2015 年版移行対応	16 社
生産改善(5S、IT 教育、体制等)	6 社
販路開拓	2 社
資格取得教育	3 社

### イ 出前研修

(ア) 派遣企業数 8 社

(イ) 派遣日数 延べ 65 日

(ウ) 実施内容

機械加工、溶接等のニーズに沿った研修を実施した。

(エ) 事業の成果及び効果

次の実施内容においてレベルアップが図られた。

実施内容	企業数
機械加工(フライス盤、旋盤)	2 社
溶接(非破壊検査、ろう付け)	6 社

### ウ 中小企業・小規模事業者ワンストップ総合支援(専門家派遣)の活用

国の専門家派遣制度を活用して、中小企業への専門家派遣のあっ旋を行った。

(ア) 派遣企業数 8 社

(イ) 派遣日数 延べ 18 日

## (3) 品質・環境関連講座事業

### ア ISO 内部監査員養成事業

国際認証 ISO 9001 取得後の品質管理システムの維持向上のため、認証を取得している中小企業を対象に、内部監査員の養成及びレベルアップのための研修を行った。



(ア) 受講者数及び実施内容

開催日	受講者数	内 容
平成 28 年 5 月 16 日～19 日	16 名 (9 社)	・新版で追加/強化された要求事項 ・内部監査の進め方 ・不適合指摘演習 ・模擬内部監査 等
5 月 30 日～6 月 2 日	14 名 (11 社)	
11 月 7 日～10 日	16 名 (13 社)	
11 月 21 日～25 日	16 名 (11 社)	

(イ) 講師 財団登録上級実務アドバイザー、品質マネジメントシステム管理技術者  
中西 一雄 氏

(ウ) 事業の成果及び効果

- a 受講者 62 名全員が内部監査員養成講座修了書発行基準(理解度確認テスト 70 点以上、かつ、出席時間 3/4 以上)を満たすことができた。
- b 2015 年版で追加又は強化された要求事項の解説とそれに関する内部監査ポイントの説明が、分かり易かったと好評であった。
- c 不適合指摘演習やグループによる模擬内部監査に重点を置いた講座内容は、今回も多く受講者から「実践的で有益な講座である」との評価を得た。

**イ 非破壊検査技術者資格取得支援事業**

取引先等に対する信用力及び品質管理の維持・向上を図るため、非破壊試験技術者資格のうち、浸透探傷試験 (PT レベル 1 及び 2、PD レベル 1 及び 2) 及び超音波探傷試験 (UT レベル 1 及び 2) の資格取得のための研修を支援した。

(ア) 受講者数 25 名 (13 社)

(イ) 講習会場 (株)日立製作所日立事業所

(ウ) 受験者内訳 (延べ数)

	非破壊検査		レベル 1			レベル 2		
			受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
平成 28 年 春期	浸透探傷試験	PT				6	2	33.3
		PD				2	2	100.0
	超音波探傷試験	UT	1	1	100.0	2	1	50.0
	計		1	1	100.0	10	5	50.0
平成 28 年 秋期	浸透探傷試験	PT	2	2	100.0	5	1	20.0
		PD						
	超音波探傷試験	UT	2	2	100.0	1	1	100.0
	計		4	4	100.0	6	2	33.3
合計			5	5	100.0	16	7	43.7

※受講者 25 名のうち 4 名は受験していない。

- (エ) 事業の成果及び効果
- a レベル 1 の受験者 5 名のうち 5 名が合格した。合格率 100.0%は全国合格率約 40.4%を大幅に上回った。
  - b レベル 2 の受験者 16 名のうち 7 名が合格した。合格率 43.7%は全国合格率約 30.6%を上回った。

## ウ 品質管理基礎講座

取引先等に対する信用力及び品質維持管理の向上を図るため、不良品再発防止の講座を実施した。

### (ア) 受講者数及び実施内容

開催日	受講者数	内 容
平成 29 年 2 月 6 日～9 日	15 名 (11 社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 是正処置の進め方</li> <li>・ 事例演習：原因究明と報告書作成 など</li> </ul>
2 月 13 日～16 日	13 名 (11 社)	

- (イ) 講師 財団登録上級実務アドバイザー 品質マネジメントシステム管理技術者  
中西 一雄 氏
- (ロ) 事業の成果及び効果
- a 受講者 28 名全員が修了基準(理解度確認テスト 70 点以上、かつ、出席時間 3/4 以上)を満たすことができた。
  - b 受講者からは、演習に重点を置いた講座内容やテキストなどの配布資料について、実践的で分かりやすかったと好評であった。

## 3 受注顧客開拓に関する事業

### (1) 首都圏受発注促進事業

受発注コーディネーターが首都圏及び日立地域の企業訪問により、発注案件を開拓し、地域中小企業に取引のあつ旋を行った。

#### ア 受注件数及び金額

項目	首都圏	日立地域	合計
受注件数	177 件	25 件	202 件
受注金額	225,900 千円	27,200 千円	253,100 千円

#### イ 事業の成果及び効果

- (ア) 受注金額は、前年度の 85.1%で、若干の落ち込みが見られたものの、目標値（受注件数 150 件、受注金額 200,000 千円）を達成することができた。
- (イ) 受注金額が減少した原因は中国からの引き上げ品と震災後のサプライチェーン見直し(予備外注先選定)が落ち着いてきたことが考えられる。

## (2) 東京サテライトオフィス運営事業【総合戦略】

新規受注開拓及び販路開拓の積極的な事業展開をサポートするため、企業イメージアップ、首都圏での営業活動の効率化を図ろうとする中小企業を対象に、東京都千代田区に常設分割型専用ブースを設置し、営業拠点としての利用を図った。

ア 利用企業数 15社

(ア) 専用ブース及びロッカー利用 9社

(イ) ロッカーのみ利用 6社

イ 事業の成果及び効果

(ア) 目標達成率 150%(利用目標値10社)

(イ) 引き合い件数 232件(うち受注件数：103件、受注金額：208,291千円)

## (3) 専門展示会出展事業

### ア 試作市場出展事業

(ア) 出展期間 平成28年5月12日～13日

(イ) 出展会場 大田区産業プラザPio (東京都大田区)

(ウ) 事業内容

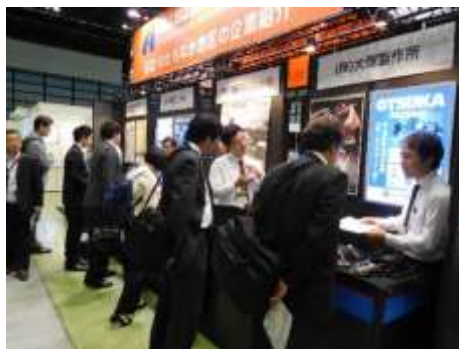
a 来場者数 2,711名(5月12日：1,164名、13日：1,547名)

b 出展企業数 11社

(エ) 事業の成果及び効果

a 各出展ブースへの訪問者も多く、商談席を設けて受注活動を行ったため、多くの引き合いがあった。(新規受注：4件、試作品提供：8件、見積依頼：17件、商談継続中：12件)

b 出展した企業のうち2社が特設会場において、企業紹介のプレゼンテーションを実施したことで、受注獲得につなげることができた。



展示ブースの様子



ワークショップ(企業紹介)の様子

### イ 機械要素技術展出展事業

(ア) 出展期間 平成28年6月22日～24日

(イ) 出展会場 東京ビッグサイト東展示場 (東京都江東区)

(ウ) 事業内容

a 来場者数 87,285名(展示会全体の出展企業数2,200社)

b 出展企業数 10社

(エ) 事業の成果及び効果

- a 各出展ブースへの訪問者も多く、商談席を設けて受注活動を行ったため、多くの引き合いがあった。(新規受注：9件、見積依頼：17件、商談継続中：10件)
- b さくらメイツともうかる君による日立地域のPRを併せて実施し、展示ブースの集客力の向上を図ることができた。



展示ブースの様子①



展示ブースの様子②

(4) 海外販路開拓支援事業

ア 台湾製造業等展示会出展事業

中国及びASEAN諸国への自社製品の販路開拓及び資材調達等を支援するため、台湾・台北市で開催された「2016台北国際自動化工業大展」に出展した。

また、新たな出展先を調査するため、「台湾国際金属科技展(高雄)」への視察を行った。

(ア) 展示会出展

- a 開催期間 平成28年8月31日～9月3日
- b 出展会場 台北世界貿易中心南港展覽館(台湾台北市)
- c 来場者数 75,146名
- d 出展企業数 6社
- e 現地企業とのビジネスマッチング会

企業名	製造品目	地域
精密機械研究発展センター	最新工作機、ロボット	台中市
春長精密工業有限公司	回転機用小型シャフト	
昇鋭電子有限公司	監視用小型カメラ	
兆宣開発有限公司	工作機用部品メーカー	

(イ) 展示会等視察

- a 日程 平成28年12月6日～9日
- b 内容
  - (a) 台湾国際金属科技展の視察(高雄展覽館)
  - (b) 企業訪問 2社

(ウ) 事業の成果及び効果

- a 展示会出展に併せて高雄市でのビジネスマッチング会及び参加企業による自主的な企業訪問を実施したことで多くの引き合いがあった。(新規受注：1件、見積依頼：11件、商談：13件、パートナー企業との詳細打合せ：2件)
- b 台湾国際金属科技展(高雄)への視察を行った結果、金属加工に特化した展示会であり、また、現地の日本企業に対する期待度も高いことが判明した。



出展ブースの様子



商談風景



精密機械研究发展中心訪問①



精密機械研究发展中心訪問②

(5) 地域間交流支援(RIT)事業【総合戦略】

ジェトロの支援を受け、日立地区の中小企業を中心とした企業グループとドイツ・バーデン＝ヴュルテンベルク(BW)州の企業群(クラスター)との間でビジネス交流を進め、新規受注獲得に取り組んだ。

ア 事業期間 平成28年4月～平成29年3月

イ 実施体制

(ア) 交流クラスター automotive-bw

(イ) 参加企業数 21社(国内研究会を組織)

(ウ) 協力者 ジェトロ本部、ジェトロ茨城貿易情報センター、ジェトロデュッセルドルフ事務所

ウ 事業内容

(ア) 国内研究会 5回

(イ) ミッション派遣

a 派遣期間 平成28年10月10日～14日

b 参加企業 9社

c 内容

BW 州経済省表敬訪問、製造設備関係展示会 MOTEK 視察、企業訪問による商談(6社)

(ウ) 海外有力企業及び有識者招聘

a 招聘期間 平成 29 年 2 月 20 日～24 日

b 招聘者 有力企業：2 社、有識者：2 名

c 内容

ものづくり企業フォーラム出展・商談会、企業訪問による商談

エ 事業の成果及び効果

a ミッション派遣及び有力企業招聘による商談会を実施したことで、多くの商談及び成約につなげることができた。(商談件数：40 件、成約見込件数：4 件)

b ミッション派遣では、Industry4.0 の時代を目指すドイツの先進的なものづくりの実態に触れることができた。



ミッション派遣



BW 州経済省表敬訪問



有力企業による企業訪問

**(6) 海外展開を進める企業の経営安定化事業【新規】**

ドイツ地域で受注活動する企業に対し、現地企業との商談の事前調整及び通訳を含めた同行支援を行うことで、受注獲得成果を高める支援を行った。

ア 実施期間 平成 28 年 9 月～平成 29 年 3 月

イ 利用社数 6 社

ウ 実施内容

ドイツに事務所を有し、ものづくりに精通する事業者に、商談コーディネート業務を委託し、利用企業 1 社当たり 2 日までの商談をサポートした。

項目	利用社数(延べ)	利用日数(延べ)
企業訪問への同行支援	4 社	6 日
展示会出展等での商談支援	3 社	4 日

エ 事業の成果及び効果

事業を通じて 13 件の商談支援を行い、5 件が継続中である。

**(7) ものづくり中小企業・小規模事業者連携支援事業**

全国中小企業団体中央会の補助を受け、地域中小企業に必要となる総合的経営力を外部専門人材の活用等により強化するとともに、つくば地域の企業群と日立地区の企業

群との連携を行い、企業連携及び共同受注体制の構築を図った。本事業では、つくばの科学技術を活用した GNT(グローバルニッチトップ)輩出を目指すオール茨城連携をテーマに、小型加速器及び機構部品の試作開発及び市場調査等を実施した。

ア 実施期間 平成 28 年 5 月～平成 29 年 2 月

イ 参加企業数 中小企業 10 社、大学共同利用機関 1 法人

ウ 実施内容

- (ア) 総合的経営力強化セミナー 2 回
- (イ) 運営推進会議 4 回
- (ウ) 小型加速器による実習プログラム 9 回
- (エ) 加速器ユニットの試作
- (オ) テーマ探索のための調査
- (カ) グループ別プロジェクト会議 3 回

エ 事業の成果及び効果

- (ア) 加速器の主要構成要素である加速管、カップラー、組立治具、導波管測定治具、RF 測定治具について、各々、設計、製作を実施し、加速管及びその関連する各アイテムについて、設計手法、シミュレーション手法、製作手法や留意点を習得することができた。今後は、加速管の組立、調整のほか、電子銃の構成部品を製作し、小型加速器の完成を目指す。
- (イ) テーマ探索のための調査において海外研究機関及び企業調査を実施した。調査結果により、今後、超伝導加速器は世界的な需要が見込めることから、超伝導加速器の周波数の調整を行うチューナーの開発を行うこととした。

## 4 新製品新技術開発に関する事業

### (1) 産学官連携研究開発補助事業【総合戦略】

中小企業が取り組む製品開発及び技術開発に資する技術ニーズを公募し、地域中小企業への波及効果が高いもので、中小企業だけでは開発困難な基礎・応用研究を茨城大学に委託した。

ア 実施内容並びに事業の成果及び効果

テーマ名	内容	委託先	主な成果等
都市近傍の微地形及び詳細土地被覆を考慮に入れた予測的環境センシング技術	「流域解析」や「地形区分解析」を行い、地形条件の違いや都市内の水道の分析を組み合わせ、地域区分を行う方法を確立し、予測に対する寄与を検討する。	茨城大学 都市システム工学科	土地被覆を基にした合理式による流量推定と風向風速・雨量計測定値により水位予測を行うモデルを想定できた。
自律移動ロボット実現のための	適切な経路を算出し、障害物を回避するアルゴリズム	茨城大学	事前の撮影による情報からロボットの自己位置を

自己位置推定及び経路探索アルゴリズムの開発・検証	ムを開発し、ロボットを自律移動させる課題の解決を図る。	知能システム工学 科	推定し目的地まで移動するための軽量なアルゴリズムを開発できた。
摩擦攪拌による異種金属接合	ツールの熱的、形状条件を模索するとともに、シミュレーションにより試験状態を再現し、実際の接合工程にフィードバックする。	茨城大学 マテリアル工学科	シミュレーションによる温度分布測定とともに、接合断面観察の結果から摩擦攪拌による金属の挙動が確認できた。

## (2) 競争的資金獲得支援事業

個別の相談に応じた補助金等申請書のブラッシュアップ及び補助金に係る情報提供など、地域中小企業が国・県等の競争的資金を獲得するための支援を実施した。

### ア 補助金申請個別相談

名称	相談件数	採択件数
ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金(1次公募)	13件	4件
ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金(2次公募)	4件	0件
革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金	13件	8件
創業・第二創業促進補助金	1件	0件
戦略的基盤技術高度化支援事業	1件	0件
いばらき産業大県創造基金	1件	1件
茨城コンテンツ活用ブランド力UP補助金	1件	0件
合計	34件	13件

### イ 経営力向上計画申請に係る個別相談

(ア) 相談件数 13件

(イ) 認定件数 13件

### ウ 事業の成果及び効果

34件の相談に対して申請書作成の支援を行い、13件が採択となり採択率は38.2%であった。

## (3) 他社特許活用による新製品開発支援事業【総合戦略】

大手企業が有する開放特許を活用することによって、地域中小企業の新製品開発や新規事業への進出の支援を実施した。

### ア 企業訪問による特許利用相談 延べ12社

### イ 特許活用による新製品・新技術開発等支援事業助成金

日立市の工業を中心とした産業集積の健全な育成とともに、地域産業の活性化を図ることを目的に、中小企業者が行う、大企業の開放特許等を活用した新製品・新技術の



開発等に要する経費に対して交付する助成金の公募を行った。しかし、今年度は、日立市内企業より助成金の申請がなかった。

ウ 知財活用アイデア茨城県大会

開放特許を活用した大学生の商品アイデア創出と地域中小企業への商品化を支援した。

(ア) 茨城県大会

- a 開催日 平成 28 年 11 月 5 日
- b 会場 筑波銀行 つくば本部ビル
- c 出場校
  - (a) 茨城キリスト教大学：2 チーム
  - (b) 常磐大学：3 チーム
  - (c) 筑波学院大学：1 チーム

(イ) 全国大会

- a 開催日 平成 28 年 12 月 10 日
- b 会場 富士通(株) 本社
- c 出場校
  - (a) 茨城キリスト教大学：1 チーム
  - (b) 常磐大学：3 チーム

エ 事業の成果及び効果

- a 大手企業が保有する医療機関、施設向けの患者見守り技術の特許を地域の中小企業が活用することとなり、その製品化に向けた支援を実施し、新しい見守りシステムの開発に貢献することができた。
- b 見守りシステムの量産化に向け、地域中小企業による共同受注体とのマッチングを支援した。

**(4) 6次産業化・農商工連携の推進事業【新規・総合戦略】**

農水産業(第1次)、製造業(第2次)及び商業(第3次)の事業者等が連携し、それぞれの経営資源を有効に活用して、新製品、新商品の生産から販路開拓までを行う取組を支援した。

ア 6次産業化、農商工連携推進コーディネーターの配置

- (有)NEW ビジネス研究所 所長 天野 良英 氏
- (6次産業化中央サポートセンター 企画統括マネージャー)

イ 6次産業化推進コーディネーターによるヒアリング及び個別相談

- (ア) 訪問件数 延べ 45 件 (日数 33 日)

ウ セミナー及びシンポジウムの開催

- (ア) 6次産業化セミナー(対象者：農業委員、農地利用最適化推進委員)
  - a 開催日 平成 28 年 8 月 23 日
  - b 会場 日立地区産業支援センター

- c テーマ 「6次産業化を進めるためのヒント」
- d 講師 6次産業化、農商工連携推進コーディネーター 天野 良英 氏
- e 参加者数 21名

(イ) 6次産業化推進セミナー（対象者：一般）

- a 開催日時 平成28年11月29日
- b 会場 日立地区産業支援センター
- c 内容

テーマ	講師
日立市の取組状況	6次産業化、農商工連携推進コーディネーター 天野 良英 氏
6次産業化の事業化のすすめ	あしきた農業協同組合(JAあしきた) 理事 高峰 博美 氏

- d 参加者数 54名

(ウ) スマート農業シンポジウム（対象者：一般）

- a 開催日 平成29年3月16日
- b 会場 ホテル テラス ザ スクエア 日立
- c 内容

- (a) 企業展示 12社
- (b) 講演

テーマ	講師
日立市の農業の現状と工業技術の活用について	6次産業化、農商工連携推進コーディネーター 天野 良英 氏
スマート農業の推進について	農林水産省 大臣官房 政策課 技術政策室 兼 技術総括審議官付 課長補佐(技術調査班) 田雑 征治 氏

- (c) 企業事例紹介 10社
- (d) パネルディスカッション  
パネラー

農林水産省 大臣官房政策課技術政策室課長補佐 田雑 征治 氏
経済産業省 関東経済産業局産業部長 渡辺 豊 氏
(株)日立ソリューションズ GIS部担当部長 西口 修 氏
茨城大学 農学部准教授 岡山 毅 氏
常陸農業協同組合みなみ営農経済センター センター長 川崎 勇治 氏

- (e) 参加者数 123名

エ 事業の成果及び効果

- (ア) 6次産業化、農商工連携コーディネーターとともに、日立市内の農水産業者、農業関連企業及び農業関連組織へのヒアリング及び個別相談を行い、中小企業者のLED

照射実験や、ブランドのイメージ化、生産者による商談会への出展支援など6次産業化の取組状況に応じたサポートが実施できた。

- (イ) セミナー及びシンポジウム開催により、地域における6次産業化、農商工連携の推進に係る機運を醸成できた。



セミナー風景①



セミナー風景②



シンポジウム風景

## 5 経営者の啓蒙に関する事業

### (1) 成長産業分野参入のためのミッション団派遣事業【総合戦略】

日立市と国際親善姉妹都市である米国アラバマ州バーミングハム市との経済交流を目的としたミッション団派遣を実施した。

ア 実施期間 平成28年10月17日～22日

イ 訪問先 アメリカ合衆国ジョージア州アトランタ市、アラバマ州バーミングハム市

ウ 参加者数 10名

エ 訪問先及び内容等

訪問先	内容等
みずほ銀行 アトランタ出張所	セミナー(米国経済の展望)
ジェトロアトランタ事務所	セミナー(米国南東部の経済、産業動向について)
Birmingham Business Alliance	事業内容説明(Metropolitan Birmingham 経済圏について)
UAB メディカルセンター	医療設備及びシステムの視察
Innovation Depot	相互企業の技術紹介

オ 事業の成果及び効果

(ア) ミッション団派遣を通じて、バーミングハム市の経済状況の把握、経済交流を行う上でのキーパーソンとの面談及び継続的交流のきっかけづくりができた。

(イ) ミッション団参加企業1社が、インキュベーション施設である「Innovation Depot」に入居している医療系ベンチャー企業とのビジネス商談を継続中である。



セミナー風景



BBA での打合せ



UAB 大学病院訪問

## (2) 展示会出展セミナー

国内外の展示会に出展を検討している企業を対象として専門家による出展準備と展示会場での活動ポイントや注意点等に関するセミナー及び個別相談会を開催した。

ア 開催日 平成 28 年 4 月 22 日

イ 演題 展示会における展示パネル、チラシ、展示物の有効なデザイン

ウ 講師 ジャイロ総合コンサルティング(株) 代表取締役 大木 ヒロシ 氏

エ 受講者数 26 名

オ 事業の成果及び効果

- (ア) これまで行われてきたセミナーより「わかり易い」、「ポイントがつかめた」、「具体的な事例があってよかった」とのコメントが寄せられた。
- (イ) 個別相談では、2社が展示パネル、展示品及びチラシの案を持参し、講師から具体的な指導やアドバイスを受けた。



セミナー風景①



セミナー風景②

## 6 創業支援事業

### (1) 日立創業支援ネットワーク事業【総合戦略】

新規創業の促進及びその後の事業安定化を図るため、創業支援事業計画に基づき日立市、日立商工会議所及び日本政策金融公庫日立支店と連携して、以下の取組を行った。

ア インキュベーション施設を通じた創業支援

- (ア) マイクロクリエイションオフィス(MCO) 7 事業者(2 事業者が新規入居)
- (イ) 創業準備デスク 1 事業者
- (ウ) 退去者(卒業生)による成果報告会 1 回

イ 個別相談会

入居者に加えて地域の創業希望者及び創業間もない者を対象として、専門家による個別相談会を実施した。

- (ア) 期間 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
- (イ) 回数 26 回
- (ウ) 相談者数 22 人
- (エ) 相談件数 延べ 60 件
- (オ) 専門家 (有)つくばインキュベーションラボ 取締役 上原 健一 氏

ウ 連携機関との協力

- (ア) 連絡会議 12回
- (イ) 関係機関主催イベントの共催及び協力 3回

エ 事業の成果及び効果

- (ア) 新規入居者が製造販売している製品が茨城県発明工夫展（学生・一般の部）において優秀賞を受賞した。
- (イ) MCO 入居者のうち 3 事業者が施設を退去(卒業)し、市内に事務所を構えて事業を継続している。



新規入居者の製品（枕）



個別相談会

## 7 情報収集発信に関する事業

### (1) ホームページ・メルマガ運営事業

各種事業の PR、公募及びイベント告知のために、ホームページの掲載及びメルマガジンの送信により効率的な情報発信を実施した。

ア 実施内容

- (ア) ホームページ情報掲載数 108 回(随時更新)
- (イ) メールマガジン発行回数 24 回(月 2 回発行)

イ 事業の成果及び効果

- (ア) ホームページアクセス件数(トップページ) 57,798 件
- (イ) メールマガジン登録者数 501 名

### (2) 支援施策調査研究事業

県北臨海地域の産業発展に寄与する地域支援施策の情報を取得するため、地域中小企業とともに調査を実施した。

ア 実施内容

- (ア) 調査企業 (有)スワニー(長野県)、旭鉄工(株)(愛知県)
- (イ) 調査日程 平成 29 年 3 月 23 日～24 日
- (ウ) 参加者 15 名
- (エ) 調査内容
  - a 3D プリンタで製造した樹脂金型を少量生産に活用した技術の視察
  - b 安価なセンサーと自社開発システムによる生産の見える化の実現及び生産性向上の方法並びに日立地区への導入検討

#### イ 事業の成果及び効果

- (ア) 自社の特性を活かし、IoT に特化した企業の取組を知ることができた。
- (イ) 先進事例の日立地区への導入を検討し、次年度の計画に反映させた。

### (3) 訪問アドバイザー事業

日立市内の企業を中心に中小企業実務アドバイザーが計画的に企業訪問を実施し、企業の当センターに対する意見及び要望を聴取し、必要に応じて財団のコーディネーターが再訪問するなどの対応を実施した。

ア 訪問期間 平成28年6月～10月

イ 訪問計画企業 79社

ウ 訪問アドバイザー 8名(2名 / 組 × 4組)

#### エ 事業の成果及び効果

- (ア) 訪問計画企業79社中68社(86%)を訪問し、26社がメールマガジン購読の新規登録を行い、定期的に発信する様々な情報の提供が可能となった。
- (イ) 訪問企業5社に対し、実務アドバイザー派遣・出前研修制度による企業支援を行った。

## 8 地域交流に関する事業

### (1) 地域交流講演会開催事業

タイムリーなテーマの講演会を開催し、中小企業関係者や一般市民が、「新たな交流とビジネスのヒント」を発見する機会とすること及び財団の事業等を周知・広報することを目的とした「スーパーヒットクラブ」を開催した。

ア 開催日、演題、講師等

開催日	演 題	講 師	参加者数
平成 28 年 9 月 28 日	ベストケアスクールなど積極的な事業展開について	ベストパートナー介護(株) 代表取締役 山本 美穂 氏	31 名
	軽水力が未来を拓く — 軽水力発電機 Cappa+++の開発と展開 —	(株)茨城製作所 代表取締役社長&CEO 菊池 伯夫 氏	
平成 29 年 2 月 7 日	魅力あるプロダクトを生み出す 3D デザインプロセス	アルテサーノ・デザイン (同) 代表、(公社)日本インダストリアルデザイナー協会 理事 吉田 晃永 氏	36 名
	県内中小企業の経営戦略と未来 ～マネジメント・イノベーションに関する 250 社のアンケート 回答結果から～	茨城キリスト教大学 経営学部経営学科 教授 大久保 隆弘 氏	

## イ 事業の成果及び効果

(ア) 第一線で活躍している企業経営者や大学教授を講師とした講演を開催し、地域を支える企業の事業内容や大学の地域貢献活動について、理解を深めることができた。

(イ) 女性の視点を活かした職業訓練や医療介護研修などの人材育成事業や、アイデアの詰まった自社製品の開発、車いすや工業機器用洗浄機のデザイン事例を使ったデザインプロセスなど、新規事業への取組や新製品開発へのチャレンジ意欲の喚起に寄与することができた。また、中小企業経営企業戦略を策定するために行ったアンケート調査結果の分析では、成長企業の具体的な行動メカニズムなど貴重な情報提供ができた。



講演会風景

(ウ) センター施設や支援事業について周知が図られた。

## II. 公共施設の管理

日立地区産業支援センターの管理を実施した。

### 1 利用状況

- (1) 利用件数：1,462件
- (2) 利用者数：16,486名
- (3) 使用料収入：4,895,710円
- (4) 目的別利用状況

区分 使用目的	件数 (件)	比率 (%)	人数 (名)	比率 (%)
見学	22	1.5	62	0.4
会議	574	39.3	15,098	91.5
機器利用	259	17.7	475	2.9
相談	70	4.8	79	0.5
情報交換・打合せ	398	27.2	540	3.3
その他	139	9.5	232	1.4
合計	1,462	100.0	16,486	100.0

### 2 修繕等の状況

トイレ、建具、機器の修繕のほか、エレベータ設備の消耗品などの交換を実施した。

### Ⅲ. 組織

#### 1 役員等

平成 29 年 3 月 31 日現在

役 職 名	現 員 数	備 考
評議員	7	
理事	7	理 事 長 1 名 副理事長 1 名 常務理事 1 名
監事	2	

#### 2 職員

平成 29 年 3 月 31 日現在

常勤職員	非常勤職員	委嘱職員	日立市 派遣職員	合 計
8	9	1	3	21

### Ⅳ. 理事会・評議員会

会 議 名	開催日又は 決議があつ たものとみ なされた日	案 件
平成 28 年第 2 回 通常理事会	平成 28 年 5 月 25 日	議案第 4 号 平成 27 年度公益財団法人日立地区産業支援 センター事業報告及び決算について 議案第 5 号 専決処分について(平成 28 年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第 1 号)) 議案第 6 号 公益財団法人日立地区産業支援センター任 期付職員の給与に関する規程の一部を改正 する規程の制定について 議案第 7 号 平成 28 年定時評議員会の開催について 報告第 2 号 業務執行理事の職務執行状況について
平成 28 年第 2 回 臨時理事会	6 月 6 日	議案第 8 号 専決処分について(平成 28 年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第 2 号)) 議案第 9 号 平成 28 年第 2 回臨時評議員会の開催につい て 議案第 10 号 平成 28 年定時評議員会の目的である事項の 変更について



平成28年第2回 臨時評議員会	6月10日	議案第4号 報告第2号 報告第3号	公益財団法人日立地区産業支援センターの 評議員の選任について 専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第1号)) 専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第2号))
平成28年 定時評議員会	6月30日	議案第5号 報告第4号	平成27年度公益財団法人日立地区産業支援 センター決算について 平成28年度公益財団法人日立地区産業支援 センター事業報告について
平成28年第3回 臨時理事会	12月22日	議案第11号 議案第12号 議案第13号	専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第3号)) 専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第4号)) 平成28年第3回臨時評議員会の開催につい て(議案第13号)
平成28年第3回 臨時評議員会	12月28日	議案第6号 報告第5号 報告第6号	公益財団法人日立地区産業支援センターの 評議員の選任について 専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第3号)) 専決処分について(平成28年度公益財団法人 日立地区産業支援センター補正予算(第4号))
平成29年第1回 通常理事会	2月20日	議案第1号 議案第2号	平成29年度公益財団法人日立地区産業支援 センター事業計画及び収支予算について 公益財団法人日立地区産業支援センター任 期付職員の給与に関する規程の一部を改正 する規程の制定について
平成29年第1回 臨時理事会	3月31日	議案第3号	平成29年第1回臨時評議員会の開催につい て
平成29年第1回 臨時評議員会	3月31日	議案第1号	公益財団法人日立地区産業支援センターの 理事の選任について